

# 平成28年第4回定例会 本会議

(議案第 85 号)

平成 27 年度伊勢崎市一般会計歳入歳出決算認定について

定 方 英 一

平成 2 8 年 9 月 7 日 (水)

伊勢崎クラブを代表して、  
議案第 85 号平成 2 7 年度伊勢崎市一般会計歳入歳出決算認定について質疑を行います。

五十嵐市長におきましては、伊勢崎市の顔として、いつも冷静に物事を捉え、的確な判断と機敏性をもって市政運営に当たられていることに対し、衷心より感謝申し上げますと共に、これからも伊勢崎市の為にご尽力賜ります様、お願いするところであります。

さて、平成 2 7 年度は、第 2 次総合計画、初年度の年であり、伊勢崎市が実現を目指す、まちの姿、

「将来都市像」は、

「夢ふくらみ 安心して暮らせる

元気都市いせさき」であります。

この将来都市像は、伊勢崎市が

- ・市民の誰もが夢や希望を持てる都市である。
- ・安心して安全に暮らせる都市である。
- ・人口が増加していく元気な都市である。

ことを表しております。

この将来都市像を実現するため、自然災害等への対応をはじめ、市民生活の安心・安全の確保、市民サービスの維持・向上、魅力あるまちづくりの推進など、様々な市政の諸課題に的確かつ迅速に対応していただいたものと考えます。

まさに、今の流行語、

「市民ファースト」その物であります。

国内の経済情勢に目を向ければ、緩やかな回復基調で推移していると判断さ

れているものの、依然として厳しい状況は続いております。市内においても、雇用・所得環境の大幅な改善は見受けられず、国同様厳しい状況は続いていると推察します。

このように、先行きが不透明な経済状況のなか、市政の舵取りは、今後もますます難しいものになると予想されます。そのような中、限られた財源の有効活用と重点的な配分を考慮しながら、行財政の効率化と財政運営の健全化に向けた取り組みに、なお一層努めていただくことを期待したいと思います。

市長は、市民の暮らし最優先の思いやり行政のもと、地域の特性や資源を最大限に活用し、

「伊勢崎を もっと元気に  
もっと豊かに  
もっと安全に」を

念頭において、5つの重点政策を掲げ、市政運営に取り組んでおります。そこで、この5つの項目の各政策について、この一年を振り返り、「平成27年度決算に対する市長の思い」をお伺いいたします。

次に、質疑の第2点目ですが、市民の大切な税金等貴重な財源には限りがあるため、財政運営においては、その効率的な活用が求められるところであります。

そこで、平成27年度予算について、的確かつ有効的に事業配分をし、効率性をもって執行された事と思いますが、これを踏まえたうえでの

「平成27年度決算の特徴について」お伺いいたします。

以上2点を、平成27年度一般会計決算質疑といたしますが、答弁の内容によっては再質疑をいたします。

再質疑いたします。

質疑の2点目「決算の特徴」の中で、歳入歳出決算額、款ごとの歳入額や目的ごとの歳出額の内容をお答えいただきました。

その中で、歳入決算額については合併後2番目の805億円規模であり、歳出決算額については合併後最大の778億円規模とのことでした。

ただ、財源は無限にあるわけではなく、また、必要な経費の縮減も限界に達する中で、この歳入歳出決算額が今後も現状程度で推移していくのか、あるいは、もっと肥大化していくのか、伊勢崎市の身の丈に合った財政と言う観点

から、健全化を維持していけるのか、心配になるところであります。

このような状況で、先ほどの答弁の最後に

「健全な財政運営に努めて、まいりたい」との事でしたが、数値の上での健全な財政状況などを確認するため、平成 27 年度決算における「市債残高・財政力指数・経常収支比率・財政健全化判断比率の 4 指標の各状況について」お伺いいたします。

[ページの先頭に戻る](#)

[元のページに戻る](#)